

平成 24 年 6 月 19 日

アオコ情報 (No. 1)

今年度からアオコ情報を発信致します。結果を下記のとおり報告します。
今後 1 週間程度は大規模なアオコの発生は見られない見込みです。

《調査内容》

調査場所：西浦（湖心），北浦（武井沖，安塚沖）

試料採集日時：平成 24 年 6 月 15 日 午前 8 時 5 分～午後 2 時 55 分

調査内容：気象等，アオコの発生状況，ミクロキスティスの細胞数密度

《結果》

①表面水温及び透明度

表面水温は 20℃を超えており，アオコの主要構成種であるミクロキスティス属の増殖可能な水温（最適水温は 30℃程度）になっています。透明度は昨年同期に比べて湖心や安塚は同程度でしたが，武井沖は大きく低下していました。

地点名	天気	表面水温 (°C)	透明度 (cm)
湖心	晴れ	21.3	80 (80)
武井沖	晴れ	22.2	100 (200)
安塚沖	晴れ	21.3	80 (75)

注) 透明度の括弧は昨年同期の値

②アオコの発生状況

今回の調査地点では大規模なアオコの発生は確認されませんでした。ただし、土浦港のようにアオコが吹き寄せられることによって、局所的にアオコレベルが4に達している場所もみられています。

地点名	アオコレベル※
湖心	1
武井沖	1
安塚沖	1
土浦（ラクスリーナ棧橋）	2

※) 霞ヶ浦河川事務所の「見た目アオコ指標」を参考にした。

<http://www.ktr.mlit.go.jp/kasumi/kasumi00190.html>

③ミクロキスティス属の細胞密度（概算値）

ミクロキスティス属は霞ヶ浦の主要なアオコの原因となるラン藻で、昨年のアオコの大量発生時はこの種が優占していました。昨年8月のアオコレベル4~5の時のミクロキスティス属の細胞密度は 1×10^5 cells/ml以上であったことと比べると、現在は低い状態が維持されています。

地点名	細胞密度 (cells/ml)
湖心	1×10^3
武井沖	1×10^3
安塚沖	1×10

④アオコ発生の今後の見通し

アオコの発生と気象条件（水温（気温）、風、日射量など）には密接な関係があることが知られています。気象庁によれば6月22日（金）まで曇り又は雨の日が続くと予測しており、日射量が少なくなることからアオコの発生を抑制すると考えられます。特に20日（水）には台風が接近して風は強く、降水量も多くなり、湖水が攪拌されてアオコは拡散すると考えられます。その後23日（土）、24日（日）と曇り又は晴れが続くと予測されており、アオコの発生に有利になりますが、25日（月）、26日（火）は再び曇りで、気温は「平年並み～低め」となると予測されていることから、アオコの発生を抑制すると考えられます。これらのことから、今後1週間程度は大規模なアオコの発生はみられないと考えられます。

今後ともアオコの調査を実施して参ります。



茨城県霞ヶ浦環境科学センター
Ibaraki Kasumigaura Environmental Science Center

担当：湖沼環境研究室
住所：〒300-0023 茨城県土浦市沖宿町1853番地
電話 029(828)0963 (dial in)
FAX 029(828)0968

